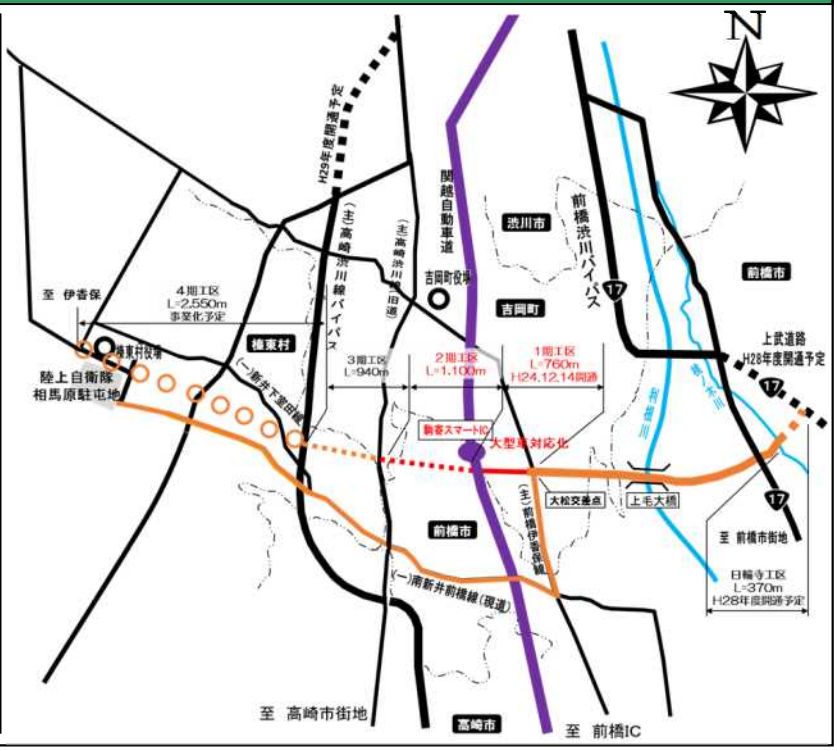
第3号議案	社会資本整備総合交付金事業 (一)南新井前橋線　(1期工区・2期工区) 吉岡町陣場～前橋市池端町～吉岡町大久保	着工年度 評価理由	平成20年度 社会的状況の変化

1. 事業の目的

本事業は榛東村新井の榛東村役場付近から県道高崎渋川線バイパス、関越自動車道駒寄スマートICを経由し、前橋市日輪寺町の国道17号上武道路までを結ぶバイパス計画の一部である。

駒寄スマートICへ接続するバイパス道路を計画的に整備することにより、アクセス性を向上させ、高速交通網を活用した物流の効率化や産業立地の促進、救命救助活動の円滑化や観光振興などを図るものである。

なお、駒寄スマートICは平成16年12月に社会実験として運用を始め、平成18年10月から正式運用しているが、利用が普通車(6m未満)以下に限られているため、平成26年度から大型車対応化の再整備事業が実施されている。



2. 事業概要と進捗状況

事業概要

事業場所	吉岡町陣場～前橋市池端町～吉岡町大久保	
区分	事前評価時	今回再評価時
全体事業費	2,300百万円	2,500百万円
全体事業費増減の理由		文化財調査の増
事業期間	H20～H29	H20～H32
事業内容	道路延長　1,860m 幅員　15.5m	道路延長　1,860m 幅員　15.5m

事業経緯

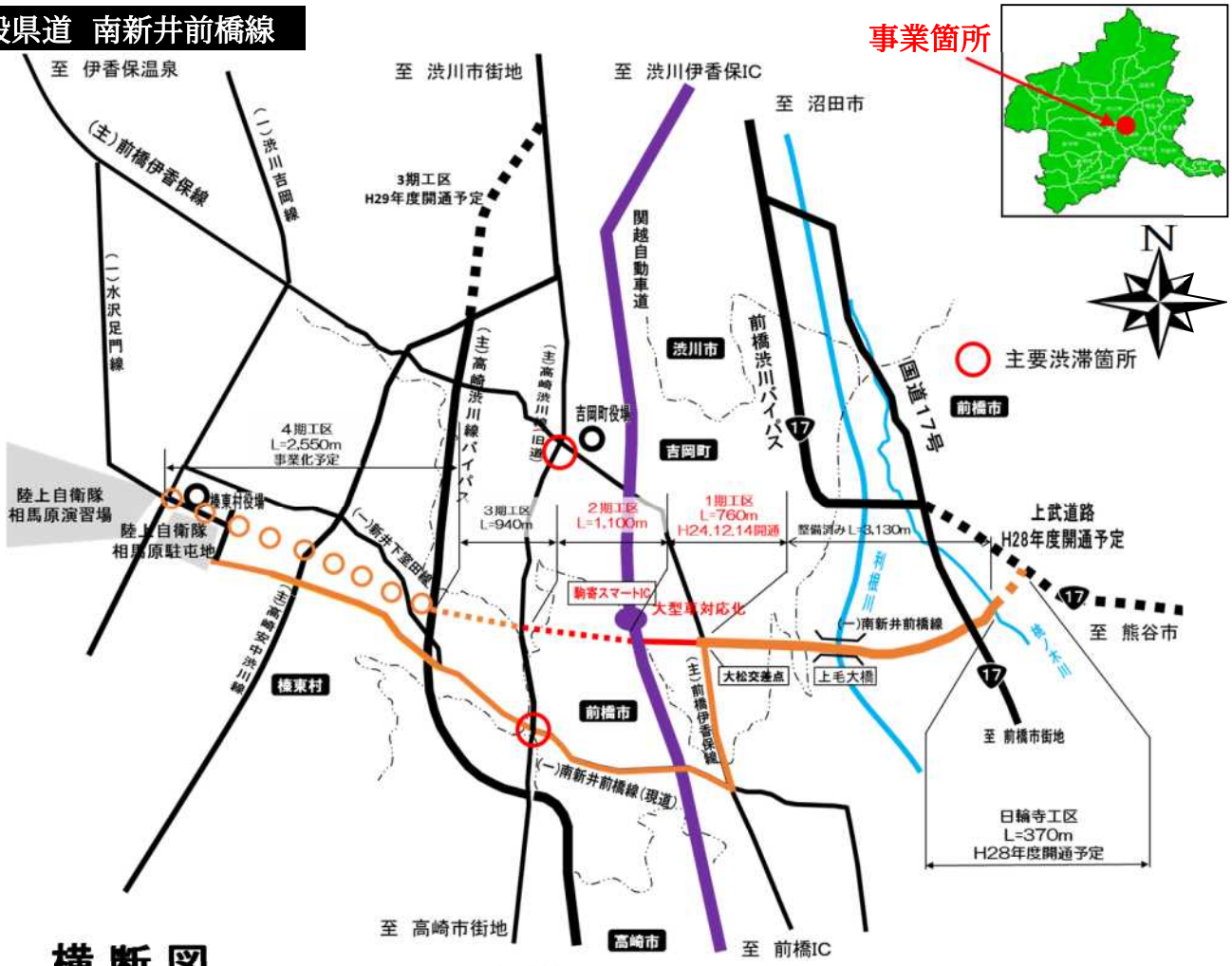
年度	主な経緯
H20	事業着手
H21	1期工区 用地買収着手
H24	1期工区 供用開始 L=760m
H25	2期工区 用地買収着手

進捗状況

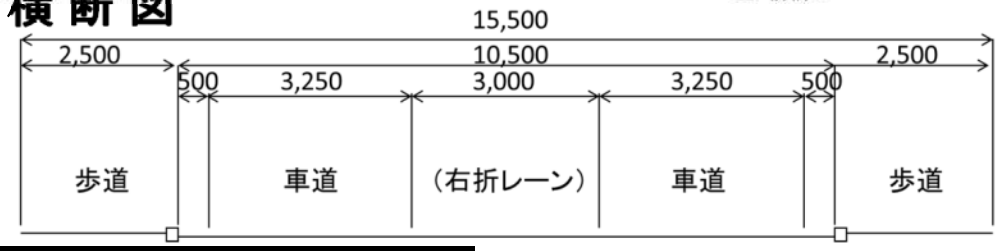
	全体計画	前回評価時の進捗状況(進捗率)	現在の進捗状況(進捗率)
事業費	2,500百万円		1,594百万円 (63.8%)
用地買収	27,909㎡		25,302㎡ (90.7%)
計画延長	1,860m		760m (40.9%)

2. 事業概要と進捗状況（図面・写真等）

一般県道　南新井前橋線



横断図



駒寄スマートIC再整備（大型車対応化）

※前橋市ホームページより引用

●現在の駒寄スマートICの状況

普通車（6．0m以下）、軽自動車、二輪車のETC搭載車のみ利用可能

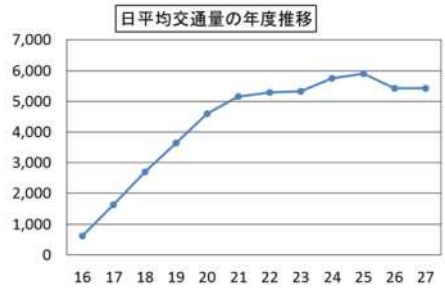
3. 事業の目的･必要性に変化はあるのか？

①平成24年に1期工区が開通し、駒寄スマートICへの東側からのアクセス性は向上し、大松交差点における渋滞は緩和されたが、依然として西側からのアクセス道路は未開通であることから、駒寄スマートICへのアクセス性の向上を図る事業の目的や必要性に変化はない。

②駒寄スマートIC西側のバイパス計画の起点部である榛東村新井付近には、災害時に拠点となる村役場、陸上自衛隊の相馬原駐屯地があり、災害時に駒寄スマートICまでの通行を確保し、円滑な救命救助活動を支援するためには、アクセス道路の整備が必要である。

③今後、駒寄スマートICの大型車対応化の再整備事業により、大型車の利用が可能となるため、基幹となるアクセス道路整備の必要性は更に高くなる。

●駒寄スマートICの交通量の年度推移



●1期工区整備前の道路状況
（大松交差点での渋滞状況）

●1期工区開通後の道路状況

4. 目的を達成するための事業（手段）は適当か？

①今後、駒寄スマートICの大型車利用が可能となるため、高速交通網の活用よる物流の効率化や産業立地の促進、救命救助活動の円滑化や観光振興の効果が充分見込めるため、最適な手段である。

②平成24年には1期工区を開通し、駒寄スマートICの供用により大松交差点で発生していた渋滞が緩和され、アクセス性が向上されるなど充分な効果が確認されている。

費用便益分析

		計画時		今回再評価時		備考　便益説明
算出根拠マニュアル		費用便益分析マニュアル 国土交通省 道路局、都市･地域整備局 平成15年8月		費用便益分析マニュアル 国土交通省 道路局、都市･地域整備局 平成20年11月		
基準年		平成19年		平成28年		
区分	項目	現在価値	構成比	現在価値	構成比	
費用（千円）	工事費	1,802,000	96.6%	2,599,000	97.4%	
	維持管理費	64,000	3.4%	69,000	2.6%	
費用合計（C）		1,866,000		2,668,000		
便益（千円）	走行時間短縮便益	4,010,000	86.8%	7,544,000	90.3%	費用便益分析マニュアルの変更 ●主な変更点 ①道路NT（ネットワーク）の変更 将来計画NT → 事業化NT ②検討年数 40年 → 50年
	交通事故減少便益	121,000	2.6%	85,000	1.0%	
	走行経費減少便益	487,000	10.5%	728,000	8.7%	
便益合計（B）		4,618,000		8,357,000		
費用対効果分析（B/C）		2.5		3.1		

5. 事業が長期間要している理由は？

【 元々が長期計画　　不測の事態により長期化 】

【元々が長期計画】
全体事業費が20億円を超える大規模な事業で、地権者数も100名以上と多く、地元調整、用地取得、工事完成までに長期間を要する計画である。

【不測の事態により長期化】
用地取得において、一部地権者との交渉が難航しているため、遅延している。

6. 事業の対応方針は？

事業継続　・　事業中止

変更なし　・事業計画の変更・スケジュールの変更

本事業は、駒寄スマートICへ接続するバイパス道路を整備することで、アクセス性を向上させ、高速交通網を活用した物流の効率化や産業立地の促進、救命救助活動の円滑化や観光振興などを図るものである。

平成24年に1期工区が開通し、駒寄スマートICへの東側からのアクセス性は向上したが、西側のアクセス道路である2期工区は未開通であるため、現在集中的な予算投入により、用地買収と埋蔵文化財調査を推進している。

駒寄スマートIC西側のバイパス計画の起点部には、災害時に拠点となる榛東村役場、相馬原駐屯地があり、災害時に駒寄スマートICまでの通行を確保し、円滑な救命救助活動を支援するためには、アクセス道路の整備が必要である。

用地取得の状況は、約91%となっているが、2期工区の一部地権者との交渉が難航しており、任意交渉と合わせて土地収用法の手続きを進め、平成32年度の開通を目指し事業を進めている。

全体事業費は、見込んでいた文化財包蔵地以外についても、本調査が必要になったため事業費が約2億円増加した。

以上から本事業の必要性、重要性は高く、早期に効果発現を図ることが適切であるため、事業継続が妥当である。